

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°24 ルナール・デ・コート

生産地方：オーヴェルニュ

新着ワイン 1 種類♪

VdF ルナール・デ・コート 2013 (白)

2013年は、白がミルデューの被害によりほぼ全滅だったため、ヴィニヨロンで知人のアントニー・トルテュル(ラ・ソルガ)を介して、ラングドック地方のモンペイルー村にあるビオディナミ生産者からヴェルメンティノーノを買って仕込んでいる。収穫はルナール・デ・コートのメンバーが朝3時に現地に到着し、ライトを当てながら陽が昇る前に行い、そのブドウを直接ドメーヌに運び仕込んでいる！発酵は全て古樽で行い、発酵終了後の熟成はファイバータンクで行っている。ワインはとてもフルーティーでバランスがとても良く、ティエリ・ルナールの丁寧な仕事が素直に味わいに反映されている！白のネゴスに関しては、もしかしたらこれが最初で最後になるかもしれない非常に貴重なワインだ！

ミレジム情報 当主ティエリ・ルナールのコメント

2013年は、ミルデューの甚大な被害に遭った年だった。4月5月と雨が多く気温の上まらない日が続き、新芽の成長も遅かった。開花時期の天候も不安定で、シャルドネやガメイ、ピノノワールは開花終了まで10日間も要した。その後も気温が上らない長雨が続き、春からくすぶっていたミルデューの猛威が一気に襲い掛かった。ボルドー液散布の効果もなく、白ブドウのほとんどは7月の時点でほぼ全滅…。辛うじて耐えたガメイとピノも半分以上がミルデューの被害に遭った。8月後半から雨は収まり、そのまま収穫まで天候は保ったが、今度は鳥による被害で更に収量減となってしまった…。ブドウの成長サイクル自体も大幅に遅れ、赤の収穫は例年よりも2週間遅い遅摘みだった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

ティエリは2015の夏に借りていた約1.5haほどの畑を所有者に返還している。クレルモン・フェランは相変わらず郊外の高級住宅地化が進んでいて、特に中心街を見下ろす小高い丘のエリアの人气が高く、畑を住宅地に変える計画が粛々と進んでいる。彼もそのあおりを食らったうちの一人だが、それにしても樹齢100年を超えるガメイがいと簡単に伐採され更地になるのを見ると本当に心が痛む。

今回、彼のかつて管理していた樹齢100年を超えるガメイの畑に案内してもらったが、今はもうかつての美しい光景はなく、何も無いまっさらな更地と化していた…。ティエリが言うには、借りていた1.5haの畑は、かつてヴィニヨロンだった所有者が彼に管理を託した畑だったのだが、所有者が高齢のため亡くなったとたん、子孫たちの相続問題に発展し、結局住宅地になったのだそうだ。「私に管理を託してくれた所有者の意に反して、残念ながら畑はまっさらな更地になってしまった…。それも致し方ないのだろう。何せ年間20万円で借りていた畑が、更地にして売却することで一度に大金を手にすることができるのだから」と彼は言う。

「かつてここ郊外はミシュランに動員されたポルトガル人を中心とする外国人労働者が住む街だった。ミシュランの給料では満足にやっていけないから、彼らはやせた土地を開墾しブドウを植えたりした。だが、2000年代に入り、住宅ブームが起これ、二束三文だった土地の価格が急に高騰した。それと同時にかつて我々の手の届かない高級住宅街だった中心街がスラム化しつつある。私も亡くなった畑の所有者も昔から生活スタイルは何も変わっていない。時代の流れは自然よりも厄介だ」と彼は意味深に語ってくれた。

ティエリ的心情は、彼と取引している自分には痛いほど分かるが、ワインに興味のない人にとっては、畑を高騰しているうちに現金に変える方が良いと思うのだろう…とはいえオーヴェルニュの尊いヴィエーユ・ヴィーニュがまた一つ消えていくことに、ただただ悲しさを覚える。

(2016.5.5.のドメーヌ突撃訪問&9.7.のドメーヌ突撃生電話より)